

第4回 立野小学校 授業研究会

講師

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター

研究開発部 教育課程調査官・学力調査官

初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

筑波大学附属小学校

教諭

南部授業改善支援センター

授業改善指導員

有本

淳

先生

辻

健

先生

保科

泉

先生

授業者 4年1組 水野 花恋 理科「自然のなかの水のすがた」



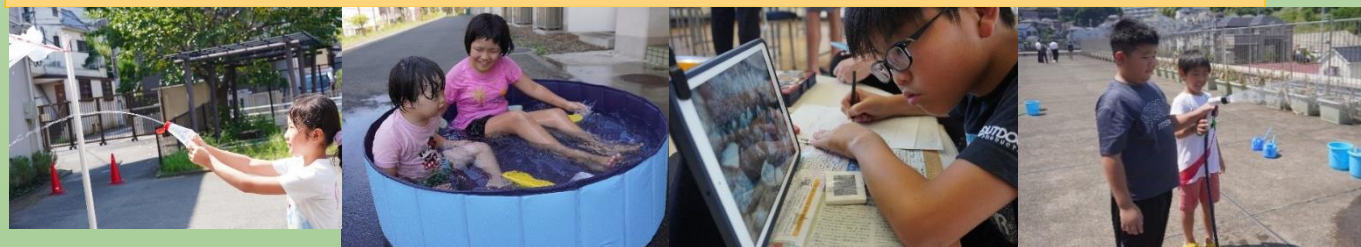
乾いた地面から水蒸気が空気中に出ているのかについて、複数の地面の結果を基に、考察して問題を解決することができる授業をしました。

校庭の鉄棒の下や体育倉庫側、畑など複数の地面を調べました。3分間でカップの内側が曇ったり、曇らなかつたりした結果から、「ほとんどの結果はカップの内側が曇った。地面に水が浸み込んでいく時間も時間がかかったように、もっと時間をおいたらカップの内側が曇らなかつた場所も変化するかもしれない。」と子どもたちは考えていました。そこで、放課後も実験すると翌日には水滴が付いていたことを総合して、より妥当な結論まで導き出すことができました。

参観した先生方からは、「問題意識をもって実験していた。」「より妥当な結論を出すために、結果から言えることを話し合い、粘り強く考えようとしていた。」と評価をいただきました。

授業者 個別支援学級 日下 彩 藤原 梨花 酒井 紀弥 生活単元・生活科／理科

「5くみウォーターパラダイスへようこそ ～なつとなかよし～」



生活科の学習では、水あそびを通して、より楽しく遊ぶためにどのような工夫ができるか考えて遊ぶことを目標に活動に取り組みました。マヨネーズの容器で友達と水合戦や的当て、ウォータースライダー、ボーリング、プールで遊びました。素材の違いに気付くよう、ペットボトルの種類や大きさ、形の異なる材料を置き、遊びに合わせて材料を変化させることができるように場を設定しました。また、子どもたちの意欲を高めるために、繰り返し水遊びを行いました。ボーリングでは、「四角いペットボトルより、丸いペットボトルの方がよく転がるね。」と素材の形の違いに気付く姿が見られました。

理科グループでは、ウォーターパラダイスで行う遊びをより楽しくするためにはどうすれば良いか考える中で、見つけた問題をそれぞれが解決する学習を行いました。虹を作るために、太陽の位置を知りたい思いから「太陽はどのように動くのだろうか。」という問題を見だし、実験の結果を記録する子どもがいました。地面アートの水が消えず、より絵を長く地面に残しておきたいという思いから「水は地面にしみ込むのだろうか。」という問題を見だし、実際に土と砂、コンクリートに水を垂らし、しみ込むか実験を行う子どももいました。個人で問題解決をした後には、実験の結果や考察を生かして、水遊びを行いました。遊ぶ中で、お互いの活動を紹介し、水の楽しさ、自然の不思議さを実感する姿が見られました。

講師の先生方からは、「個々のめあてに合わせて学習が進められ、個別最適な授業づくりを意識できている。」「交流級の先生方との関わりがあり、子どもたちの学習が深まっている。」と評価をいただきました。